

畜産茨城

第460号

平成28年6月1日

発行所／茨城県水戸市梅香1丁目2番56号
公益社団法人 茨城県畜産協会
電話 029(231)7501
URL <http://ibaraki.lin.gr.jp>
発行人／加倉井 豊邦

目次

平成28年度畜産施策方針と重点施策	2	牛白血病ウイルス感染牛からのウイルス検出について	8
畜産課職員配置図	3	平成29年度茨城県立農業大学校入学生募集	9
畜産協会の新体制	3	平成28年3月市況	10
平成28年度 畜産課関係主要事業及び予算額	4	肉用子牛生産者補給金・肉用牛繁殖経営支援事業発動状況	10
平成28年度 定期人事異動	5	平成28年4月市況	11
新任あいさつ	6	新マルキン発動状況	11
地方競馬 場外発売日程	7	農地中間管理機構からのお知らせ	12



・牛乳の日とは

毎年6月1日は「牛乳の日」、6月は「牛乳月間」です！世界的には、FAO（国際連合食糧農業機関）が、6月1日をWorld Milk Day（世界牛乳の日）として、提唱しています。日本でも2008年から、6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」としております。

・茨城県牛乳普及協会では

酪農・乳業への理解と、県産牛乳・乳製品の消費拡大が県民の健康維持増進に資するとし、6月1日、茨城県知事等に対し、構成役員（正副会長、県内牛乳製造会社社長）を以て表敬訪問を行いました。

生処販で組織する茨城県牛乳普及協会は「ミルクスタ」で季節限定で好評販売中の本県産メロンを使用した「ミルクシェイク」を紹介し県内4社の牛乳を持参して、牛乳飲用をアピールしました。

6月の牛乳月間では、県庁内食堂「ひばり」において、乳和食の献立が週3回程度提供され、又、水戸京成ホテルでは、「クリーミーカルボナーラ生ハム添え」が、牛乳月間ランチとして提供されます。是非ご賞味下さい。

茨城県牛乳普及協会 事務局長 市村 章

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

平成28年度畜産施策方針と重点施策

茨城県農林水産部畜産課長 永田 裕

現状と課題

昨年度に引き続き、畜産課長として本県畜産の振興に全力を尽くしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、本県の平成26年農業産出額は、4,292億円と前年比64億円減となったものの平成20年から7年連続で全国第2位となっており、このうち畜産は、69億円増の1,200億円であり、本県農業全体の28%を占める基幹産業となっています。

部門別にみると、採卵鶏が全国第1位、養豚が第5位、乳牛が第8位、肉牛が第11位など、本県は、全国有数の畜産県であり、県内はもちろん大消費地である首都圏の台所を支える供給基地として、重要な役割を担っています。

一方、畜産を取り巻く情勢につきましては、高齢化による生産者の減少や人口減少に伴う国内市場の縮小、流通のグローバル化など、大きな課題が山積しております。

特に、TPP協定については、急激な輸入増はないものの、今後、長期的には国産畜産物の価格の下落につながる事が懸念されるなどから、早急な対応が必要であると考えております。

このほかにも、配合飼料価格の高止まりによる収益性の悪化や国際的な人や物の往来増による家畜伝染病発生リスクの高まり、また、「世界湖沼会議」の本県開催決定（2018年）を踏まえた霞ヶ浦流域における一層の環境負荷軽減など、様々な課題への対応が必要となっております。

対応方針

このような中、県では、本県農政の基本方針となる新たな「茨城農業改革大綱」を策定し、「人と産地が輝く、信頼の『いばらきブランド』」を基本方向に、ブランド化や6次産業化による付加価値向上、輸出促進等による需要開拓、「強み」を創り・高める革新的な産地作り、経営感覚に優れた経営体の育成などに取り組んで行くこととしております。

畜産分野においては、TPP協定やグローバル化の進展に対応するため、国内外の産地間競争に打ち勝つ畜産業を実現するため、畜産経営の規模拡大による収益力の強化や県オリジナル種畜によるブランド力強化、輸出拡大等に重点的に取り組んでまいります。

また、消費者が求める安全・安心で、高品質な畜産物を供給するため、アジア地域で発生している口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等に対して必要な防疫対策を講じるほか、優良な種雄牛や系統豚を活用した付加価値の向上や家畜改良・生産基盤強化に取り組み、銘柄畜産物を牽引役として海外や首都圏に向けた県産畜産物の販路拡大対策を推進いたします。

このほか、輸入飼料に依存しない畜産経営基盤づくりのため、耕畜連携による飼料用米等の利活用やとうもろこしなどの自給飼料増産への取組を支援するとともに、環境負荷軽減に向けた家畜排せつ物の適正管理と有効利用、農外利用の促進等を図ってまいります。

重点施策

(1) TPP協定への対応

畜産物の国際競争力の強化を図るため、畜産農家と地域関係者が一体となって行う経営の規模拡大や収益力強化の取組を支援するほか、家族経営を中心とした酪農家への乳用雌牛導入支援、県内和牛繁殖農家の規模拡大や常陸牛指定生産者の繁殖・肥育一貫経営転換への支援、養豚研究所が開発している脂肪交雑に優れた豚肉生産を可能とするデュロック種系統豚を活用した本県産豚肉のブランド化を推進してまいります。

(2) 生産基盤の強化

より高品質な畜産物の安定供給や輸入飼料に依存しない畜産経営を確立するため、家畜改良による産肉・繁殖能力の向上を図るほか、水田を活用した飼料用稲の生産・利用促進、耕作放棄地や公共牧場の活用による省力化やコスト低減に向けた取組を支援してまいります。

(3) 畜産物流通の促進及び畜産経営の体質強化

国内外の産地間競争に対応していくため、本県の銘柄畜産物である「常陸牛」、「ローズポーク」、「いばらき地鶏」の付加価値の向上や販路拡大など、一層のブランド力強化を図るほか、常陸牛輸出販売促進員による東南アジア等を対象とした輸出拡大の取組を支援します。また、畜産経営安定を図るため、制度資金やリース事業、コントラクター等の活用促進を図ってまいります。

(4) 家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産

家畜伝染性疾病の発生やまん延防止を図るため、飼養衛生管理基準の遵守を徹底するほか、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の万一の発生に備えた危機管理体制を充実します。また、オーエスキー病の清浄化対策の推進や死亡牛全頭の牛海綿状脳症検査の継続、農場HACCP等の飼養衛生管理手法の導入支援や消費者への飼養管理情報の提供等により、安全・安心な畜産物の生産を支援します。

(5) 畜産環境対策の充実

環境に対する県民の関心が高まる中で、霞ヶ浦の富栄養化や霞ヶ浦流域における混住化が進んでいることから、環境負荷削減による環境と調和した畜産を実現するため、高品質堆肥の生産や堆肥の広域的な流通・利用促進、エネルギー利用など農地還元以外の家畜排せつ物の利用を推進します。

(6) 試験研究の推進と指導體制の充実

新しい農業改革大綱の推進方向を踏まえつつ、第2期中期運営計画に基づき、①ブランド力強化を支える新品種・新技術の開発、②環境にやさしい資源循環型畜産及び地球温暖化対策等を支える技術の開発、③受精卵移植等の先端技術の開発と利活用及び国産飼料を活用した低コスト技術の開発、を3つの重点推進事項とし、農業総合センターや行政機関及び関係団体等とも連携しながら試験研究を推進してまいります。

平成28年度 畜産課関係主要事業及び予算額

(単位：千円)

	小項目	事 項	事 業	予算額	備 考
T P P対策	畜 産 振 興 費	畜産競争力強化対策事業費	畜産競争力強化対策事業費	719,680	
		和牛生産基盤強化対策事業費	和牛生産基盤強化対策事業費	10,000	重要政策, 新規
	家 畜 改 良 増 殖 費	家畜生産性向上対策事業費	家畜生産性向上対策事業費補助	11,850	重要政策, 新規
		ブランド豚肉生産拡大事業費	ブランド豚肉生産拡大事業費	59,730	重要政策, 新規
	計				801,260
生産基盤の増強	家 畜 改 良 増 殖 費	家畜生産性向上対策事業費	家畜生産性向上対策事業費補助	3,683	
			家畜生産性向上対策事業費	2,850	
			家畜改良体制再構築支援事業費	3,022	
	飼 料 対 策 費	飼料増産対策事業費	飼料増産対策事業費	2,269	
		耕種連携等自給飼料確保緊急対策事業費	耕種作物等自給飼料増産事業費	26,000	
	牧 野 改 良 費	公共育成牧場強化対策事業費	公共育成牧場強化対策事業費補助	3,122	
計				40,946	
畜産物流通の促進及び畜産経営の体質強化	畜産物流通対策費	畜産物流通対策事業費	肉畜鶏卵生産流通促進事業費	1,742	
		銘柄畜産物ブランド支援事業費	銘柄畜産物ブランド支援事業費	8,745	重要政策(輸出分)含
	畜 産 振 興 費	畜産振興資金貸付金	畜産振興資金貸付金	199,000	
		家畜生産振興事業費	家畜生産振興事業費	3,838	
			酪農経営支援組織強化対策事業費	4,000	
計				206,838	
家畜衛生対策の充実と安全な畜産物の生産	家 畜 衛 生 対 策 費	安全・安心な畜産物生産体制確保推進費	家畜衛生対策事業費	10,558	
			農場防疫対策支援事業費	8,321	
		動物用医薬品薬事監視費	動物用医薬品薬事監視費	614	
		家畜衛生特別対策事業費	家畜衛生特別対策事業費	2,312	
	家 畜 伝 染 病 予 防 費	家畜伝染病予防事業費	獣医療提供体制整備事業費	584	
			家畜伝染病予防事業費	108,634	
			自衛防疫強化総合対策事業費	1,620	
		死亡牛牛海綿状脳症検査補助委託事業費	死亡牛牛海綿状脳症検査補助委託事業費	11,378	
	家畜保健衛生所費	家畜保健衛生所費	家畜保健衛生所費	45,019	
	飼料対策費	飼料対策推進事業費	飼料対策推進事業費	197	
肥飼料検査指導事業費	肥飼料検査指導事業費	肥飼料検査指導事業費	900		
計				190,137	
畜産環境対策の充実	畜産環境保全対策費	資源循環型畜産確立指導事業費	資源循環型畜産確立指導事業費	1,362	
		いばらき畜産環境保全促進事業費	資源リサイクル畜産環境緊急対策事業費	3,588	
		良質堆肥広域流通促進事業費	良質堆肥広域流通促進事業費	11,500	
		畜産バイオマス燃料化推進モデル事業費	畜産バイオマス燃料化推進モデル事業費	4,500	
計				20,950	
試験研究の推進と指導体制の充実	畜 産 セ ン タ ー 費	自給飼料生産事業費	自給飼料生産・加工指導対策事業費	3,597	
			試 験 研 究 費	51,546	
		畜産センター試験研究費	国 補 試 験 研 究 費	29,544	県北家保分含
			国 補 施 設 整 備 費	57,722	
	畜 産 振 興 費	畜産センター肉用牛研究所試験研究費	試 験 研 究 費	37,129	
			畜産センター養豚研究所試験研究費	36,708	
		畜産振興推進事業費	畜産経営指導事業費	2,457	
			畜 政 推 進 費	6,615	
	指定助成等事務事業費	3,426			
	畜産経営指導体制円滑化推進事業費	畜産経営指導体制円滑化事業費補助	16,625		
計				216,246	

平成28年度

定期人事異動

所 属	職 名	氏 名	旧 所 属
農 林 水 産 部	部 長	井上 計	農林水産部次長
	次 長	齋藤 章	市町村課長
畜 産 課	技 佐	佐藤 則子	畜産課課長補佐
	課長補佐(技術総括)	館野 英喜	畜産課課長補佐
	課長補佐	棚井 幸雄	畜産課主査
	課長補佐	川上 純子	畜産課主査
	主 査	福田 英仁	販売流通課主査
	主 査	石井 正人	県西家畜保健衛生所防疫課長
	係 長	星野健一郎	鹿行農林事務所係長
	係 長	西野 弘人	畜産課主任
	主 任	赤上 雅子	畜産センター主任
	主 任	大川 清充	畜産センター養豚研究所主任
	技 師	飯尾 恒	畜産センター肉用牛研究所技師
	県北家畜保健衛生所	所 長	大内 義尚
防疫主査		前田 育子	畜産センター養豚研究所首席研究員兼技術研究室長
病性鑑定第一課長		小野 芳子	県北家畜保健衛生所病性鑑定第二課長
病性鑑定第二課長		関 智子	県北家畜保健衛生所係長
係 長		水野 博明	県西家畜保健衛生所係長
技 師		高安真理子	日立保健所技師
鹿行家畜保健衛生所	技 師	鹿島 悠幹	畜産センター技師
	所 長	菊池 理之	県西家畜保健衛生所長
県南家畜保健衛生所	技 師	中村 拓也	新採
	所 長	鴨川 修	畜産課課長補佐(技術総括)
	防疫主査	田中 信明	県北家畜保健衛生所防疫主査
県西家畜保健衛生所	技 師	古田土彩子	県北家畜保健衛生所技師
	所 長	栗山 伸人	県南家畜保健衛生所長
	防疫課長	高橋 覚志	県北家畜保健衛生所病性鑑定第一課長
畜産センター	技 師	柏井 美穂	新採
	生産技術研究室長	海老沢重雄	県央農林事務所係長
	主任研究員	大林 康信	肥飼料検査所係長
	主任研究員	大窪 敬子	畜産センター主任
	主任研究員	石川 恭子	県北農林事務所専門員
	技 師	岩本 和也	鹿行家畜保健衛生所技師
畜産センター肉用牛研究所	主任(事務)	高安 利恵	県西農林事務所主任
畜産センター肉用牛研究所	技 師	清水正太郎	新採
	所 長	岡村 英明	畜産課技佐
	首席研究員兼飼養技術研究室長	作田 敦	県南家畜保健衛生所防疫主査
畜産センター養豚研究所	技 師	佐藤 和美	新採
	企画調整課長	大浦 俊彦	県北農林事務所主査
	振興・環境室農業振興課主査	笹沼 清孝	農業大学校主査兼研究科長
県北農林事務所	専 門 員	谷田部 隆	県西農林事務所専門員
	主 任	坪井 佑季	畜産課技師
県央農林事務所	主 査	須藤 正巳	畜産課係長
鹿行農林事務所	振興・環境室長	山形 勝吉	県北農林事務所企画調整課長
県西農林事務所	主 任	須藤 立	畜産センター主任
農業大学校	主 任	斎藤 隆夫	県南家畜保健衛生所主任
販売流通課	係 長	加藤 康明	畜産課係長
県西食肉衛生検査所	主 任	本谷 綾香	農業大学校主任

新任あいさつ

茨城県県北家畜保健性衛生所長 大内 義尚

この度の定期人事異動により、県北家畜保健性衛生所長を拝命いたしました。県北家畜保健性衛生所は、12年振りの勤務になります。

平成25年、平成26年と全国的に大流行した豚流行性下痢は、3年目の平成27年9月以降は防疫対策が徹底されたことにより、発生数が減少したものの、南九州や北関東の養豚生産地帯を中心に発生が確認されました。

そのような中、豚流行性下痢は県内でも9例の発生が確認されていますが、養豚農家や畜産関係者の皆様の日々の消毒が功を奏し、散発的な発生で食い止めることができております。県内で唯一病性鑑定施設がある当所では、全国に先駆け迅速な診断技術を開発し、搬入当日に確定診断できる体制を整えており、迅速な初動防疫対策に貢献しております。

一方、東アジア諸国では、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝染病の継続的な発生が確認されていることから、人による病原体の移動に一層の警戒をしなければなりません。空港などにおける水際での検

疫については、農林水産省が強化しておりますが、畜産現場においても農場の防疫に万全を期することが重要になってきています。具体的には、農家を含めた畜産関係者が、人の出入りが多い場所や他の農場に不要に近づかない、立ち入った際は出入り口での消毒を徹底する、渡航する場合は、行き先の家畜伝染病の発生状況を確認し、畜産関係施設には立ち寄らないことが大切になっています。

万一、口蹄疫等が発生した場合、周辺への影響は計り知れないものがあり、地域の畜産業衰退の引き金にもなるかもしれません。そのためにも、家畜防疫を畜産農家の問題とするのではなく、地域を挙げて家畜を守る必要があり、地域の防疫体制の構築を急がなければなりません。

今後とも地域の畜産経営が安定的に発展できるよう、日頃から地域の家畜衛生情報の収集に努め、迅速かつ的確な防疫対応をとるよう、積極的に取り組んでまいりますので、関係各位のご指導・ご鞭撻をお願い申しあげ、新任の挨拶といたします。

新任あいさつ

茨城県鹿行家畜保健性衛生所長 菊池 理之

この度の人事異動により鹿行家畜保健性衛生所長を拝命いたしました。当所は平成11年度以来16年ぶりの勤務となります。どうぞよろしくお願いいたします。

鹿行地域は全国的にも有数の養豚地帯であり、本県の飼養頭数の約4割を占めます。こうした中、豚流行性下痢(PED)は平成27年9月以降は6件発生しましたが、関係各位のご協力により4月1日時点でうち4件は非発生農場に復帰し、残る2農場も間もなく復帰の見込みです。

またオーエスキー病については、市役所、獣医師の方々、関係団体などのご協力をいただき、清浄化に向けて徐々に進んできております。

口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの特定家畜伝

染病については、韓国、中国などの近隣諸国から日本国内にいつ侵入してもおかしくない状況が続いています。畜産農家はもちろん関係者が一体となって、適切な消毒の実施や発生国(地域)への渡航自粛等、病原体を絶対に農場に持ち込ませない、また万一に備えて農場に出入する人の記録、日常の家畜の健康観察、異常畜の早期届出を徹底するなどの地道な対策を続けていかななくてはなりません。

私ども家畜保健性衛生所は畜産経営の一助となるよう、また農家の皆様に安全・安心な畜産物を生産していただくため、今後も家畜伝染病の検査業務や飼養衛生管理基準の遵守指導等に努めて参りますので、引き続き関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

新任あいさつ

茨城県県南家畜保健性衛生所長 鴨川 修

この4月に畜産課から県南家畜保健性衛生所長として赴任いたしました。

平成17年度に畜産課の家畜衛生グループに配属になってから畜産課勤務が約10年にわたりましたので、久しぶりの家畜保健性衛生所勤務となります。

この間、茨城県内では、平成17年に高病原性鳥インフルエンザ発生による全飼養羽数の約半分にあたる568万羽もの鶏の処分、平成23年の東日本大震災に伴う原発事故による放射能汚染、平成26年の雪害や平成27年の関東東北豪雨による畜産農家への被害など予想もつかない事件の数々が発生し、行政機関として、適切な対応が求められました。

畜産課在任中、国や生産者団体、マスコミなどへの対応・調整や予算化作業に追われながら、家畜伝染病や災害など突発的な事象に対する「危機管理」の必要性が痛切に感じられた10年でした。

これらのことから、畜産農家の方々が自らの財産を守り、経営を安定的に継続していくためには、災害対策はもちろんのこと、家畜伝染病への備えをしっかりと行うことが何より重要であると考えております。

また、畜産経営はTPPなどグローバル化の進展により、これまでになかった競争にさらされようとしております。畜産経営の安定対策として、国で基金化された畜産クラスター事業、制度充実が図られたマルキンや養豚安定対

策、さらには、新たに県単事業で措置された雌牛の導入事業など様々な施策がございます。

畜産農家の方々にはこれらの施策を積極的に活用していただきながら生産基盤を強化していただくとともに、本県畜産業における「危機管理」体制を構築するための柱となる家畜伝染病対策の推進にご理解を賜りたいと思

ます。

家畜保健衛生所が実施する事業の推進にあたりましては、団体や市町村、関係機関など畜産関係者の皆様との連携が不可欠です。今後とも、事業へのご理解・ご協力を賜りますようお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

新任あいさつ

茨城県西家畜保健衛生所長 栗山 伸人

この度の定期人事異動により、県西家畜保健衛生所長を拝命いたしました。県西家畜保健衛生所は12年ぶりの勤務となります。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は、近隣諸国では高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫等の重要家畜伝染病の発生が継続的にみられ、その侵入が危惧されていたところですが、国内においては発生がなく比較的平穏な状況にありました。

一方、豚流行性下痢（PED）は一時的ような大きな発生はなくなったものの、近隣県及び県内においても散発的な発生が見られ、一部には継続発生している農場も見受けられる状況にあります。

これら家畜伝染性疾病的の発生やまん延防止を図るため、

畜産農家全戸の巡回による飼養衛生基準遵守の徹底を図るとともに、重要疾病発生時には迅速な情報提供を行い、万が一の際に迅速な初動防疫が行えるよう体制を整えてまいります。

畜産を取り巻く情勢は生産者の減少、飼料価格の高止まりにより生産コストが増加するなど厳しい状況にあります。また、TPP協定では畜産物への影響が特に大きいとの試算がされており、長期的には価格の低迷が懸念されます。当所としましては、疾病発生予防や生産性向上、畜産物の安全性確保を通して畜産経営安定に寄与できるよう取り組む所存です。関係各位のご指導ご鞭撻をお願いして、就任のご挨拶とさせていただきます。

新任あいさつ

茨城県畜産センター養豚研究所長 岡村 英明

この度、養豚研究所長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

畜産を取り巻く情勢は、生産資材や飼料価格が上昇しているほか、混住化が進展し、地域での環境が深刻化しており、環境対策とともに疾病対策への対応など多くの課題が存在しています。

養豚農業の経営安定を図るため、行政的には各種施策が講じられておりますが、試験研究機関の役割としては、技術的支援に係わる成果が求められています。

当研究所では、これまでにランドレース、大ヨークシャーの2品種の系統豚の造成を行っており、「ローズレー3」は優良純粋種として活用されるとともに、銘柄豚肉ローズポークの基礎豚となっております。

また、これまでは雌系統のみの造成でありましたが、産地間競争の激化等に対応した肉豚の高品質化を図るため、平成23年度から造成を開始した雄系であるデュロック種が本年10月に造成が完了し、年度内に系統豚とし

て認定される見込みであり、平成29年度からの供給開始を目指しているところです。この系統は、脂肪交雑の多い霜降り肉の生産が期待されています。是非、活用をお願いします。

このほか、養豚経営においてはさらなるコストダウンや品質向上が求められています。そこで、飼料用米の利用と併せて、食品残渣や未利用資源等の有効利用、いわゆるエコフィードを活用して、コスト削減により経営の安定化を図るとともに豚肉の差別化とを加味した研究課題として取り組んでおります。

飼料用米は水田農業の維持と飼料自給率の向上のために必要性の高い課題であり、給与技術の確立によりその利用性が拡大されるものと思っております。

今後とも、現場のニーズに対応した課題設定等に努め、より良い研究に取り組む所存でございますので、関係各位のご指導ご鞭撻をお願いして、就任のご挨拶といたします。

地方競馬 場外発売日程

「オフトひたちなか」TEL: 029-265-5800

※発売日程は、変更になることがあります。

2016年6月

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
オフトひたちなか	浦和						大井							川崎								船橋							大井	

○さきたま杯

○東京ダービー

○関東オークス

○京成盃グランドマイラーズ

○優駿スプリント

○帝王賞

2016年7月

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
オフトひたちなか	大井						川崎						大井					浦和			船橋						川崎			大井	

○スパークングレディーカップ

○ジャパンダートダービー

○習志野きらっとスプリント

牛白血病ウイルス感染牛からのウイルス検出について

～体液および採卵関連資材の調査～

茨城県畜産センター飼養技術研究室

はじめに

牛白血病のうち牛白血病ウイルス (BLV) により引き起こされる地方病性牛白血病は、近年、発生が増加しており、生産現場での被害も増加傾向にあります。本病への衛生対策にあたっては、家畜の飼養者、家畜保健衛生所の職員、獣医師、家畜人工授精師、関係機関等が一体となって取り組むことが大切です。

そこで今回、本病への衛生対策の確認として、当センターで飼養する黒毛和種のうち血清のリアルタイムPCR検査 (rPCR) によりBLV 遺伝子が検出されたBLV 感染牛4頭を対象として、鼻汁、唾液、糞便、乳汁からの排出状況、また、採卵時の器具、受精卵および子宮灌流液からのBLV 汚染状況を調査したので紹介します。

鼻汁、唾液、糞便、乳汁からのBLV 検出

感染牛から鼻汁、唾液、糞便および乳汁 (分娩後0日～3日、7日及び1か月後) を検体として採取後、DNAを抽出し、rPCRによりDNA量を測定し、BLVの排出状況を調べました。

その結果、鼻汁からは1頭でBLV 遺伝子が検

出されました。また、糞便および唾液からは4頭全てで、BLV 遺伝子は検出されませんでした。さらに、乳汁からは検査した3頭の感染牛全ての乳汁でBLV 遺伝子が検出されました。

採卵時の器具等からの検出

感染牛の採卵時に使用した頸管拡張棒、粘液除去棒、バルーンカテーテル、直腸検査用手袋の拭き取り検体からDNAを抽出し、rPCRによりDNA量を測定し、BLVによる汚染状況を調べました。

その結果、感染牛4頭のうち、1頭で頸管拡張棒、3頭で直腸検査用手袋からBLV 遺伝子が検出されました。しかし、粘液除去棒、バルーンカテーテルからは、BLV 遺伝子は検出されませんでした。

受精卵と子宮灌流液からの検出

感染牛より採卵した受精卵および子宮灌流液を希釈しrPCRによりDNA量を測定し、汚染状況を調べました。

その結果、感染牛1頭より採卵した受精卵からは、BLV 遺伝子は検出されませんでした。また、感染牛3頭の採卵時の子宮灌流液からは、1頭でBLV 遺伝子を検出しました。

表 各検体からのBLV 遺伝子量 (copies/ μ l)

感染牛		A	B	C	D
血清		2.359	1160.9	18.485	3.970
鼻汁	直接	—	—	—	—
	希釈	NT	NT	0.127	NT
唾液		—	—	—	—
糞便		—	—	—	—
乳	Day0	0.093	NT	0.173	NT
	Day1	—	—	—	NT
	Day2	—	0.311	0.418	NT
	Day3	—	—	0.134	NT
	Day7	—	0.700	—	NT
	Month1	—	0.086	1.658	NT
頸管拡張棒		—	0.086	—	NT
粘液除去棒		—	—	—	NT
バルーンカテーテル		—	—	—	NT
直腸検査用手袋		0.244	0.637	—	0.124
受精卵		—	NT	NT	NT
子宮灌流液		—	0.145	—	NT

NT : 未実施

まとめ

今回の調査により、改めて乳汁中にはBLVが含まれていることがわかりました。このことから初乳によるBLV感染を防ぐため、初乳の代用として初乳製剤の給与を行うことや初乳の加温や凍結処理を行うなどの経乳感染防除が重要です。

また、粘液などの調査では、今回は鼻汁のみからの検出でしたが、感染牛の粘液には血液成分が含まれBLVに汚染されている可能性があります。そのため、このような排出物についても感染源としないよう十分に注意する必要があります。

さらに、血清中の遺伝子量が多かった牛Bおよび牛Cでは、各種検体からBLV遺伝子が検出されました。

今回、卵子からはBLV遺伝子が検出されま

せんでした。また受精卵は、保存する際に、保存液等に移し替える過程で洗浄されること、さらには凍結処理されることから、受精卵移植による受卵牛へのBLV感染リスクは低いと言われていています。しかし、今回、採卵時の器具や子宮灌流液からBLV遺伝子が検出されたことから、直腸検査や人工授精、採卵、受精卵移植を行う獣医師、家畜人工授精師は、1頭につき1セットの器具を使用することを厳守し、使用後は、しっかりと洗浄や滅菌、廃棄等を行わなければなりません。

今後も普及していく受精卵移植が、BLV感染拡大の要因になることなく、BLV感染牛の優良血統を残していく手法として活用されていくことを期待します。

平成29年度

茨城県立農業大学校入学生募集

農業の実践力を養います。大学への編入資格も得られます。

募集人員等

区分	学科名	募集人員	受験資格	修業年限	専攻コース
学科	農学科	40名	高校等を卒業した者又は平成29年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜産学科	10		2年	畜産
	園芸学科	30		2年	施設野菜・花き
研究科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

願書受付・入学試験

試験区分	願書受付期間	試験日	選抜方法
推薦入試 (各学科)	平成28年10月3日(月) ～10月21日(金)	平成28年11月2日(水)	小論文 口述試験(個別面接) 調査書等
一般入試 (各学科)	前期 平成28年11月14日(月) ～12月7日(水)	平成28年12月15日(木)	筆記試験 口述試験(個別面接) 調査書等
	後期 平成29年2月6日(月) ～2月24日(金)	平成29年3月3日(金)	
研究科 一般入試	平成28年11月14日(月) ～12月7日(水)	平成28年12月15日(木)	筆記試験 口述試験(個別面接) 調査書等

授業料等

- ・入学試験手数料(2,200円)、入学料(5,650円)、授業料(年118,800円)、自治会費他
- ・学科1年生は全寮制(1人食費月額約30,000円)、学科2年生及び研究科は希望入寮制

問い合わせ先

〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡4070-186

茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL029-292-0010

農大ホームページ

農業総合センター農業大学校/茨城県

検索

平成28年3月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
2	一般子豚	21	19,656	19,656	19,656	50
	ベビー豚	247	20,628	16,308	19,201	35
16	一般子豚	34	26,352	23,976	24,868	50
	ベビー豚	225	22,788	17,388	20,700	35
30	一般子豚	0				
	ベビー豚	326	21,924	17,604	20,639	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	53	860,760	487,080	689,835	276	2,499
		♂	1	596,160	596,160	596,160	200	2,981
		去計	50	1,064,880	303,480	846,266	298	2,842
		計	104	1,064,880	303,480	764,142	286	2,674
	経産	1	274,320	274,320	274,320	-	-	
	F1	♀	8	368,280	281,880	340,740	259	1,314
	去計	25	452,520	189,000	417,658	268	1,557	
	計	33	452,520	189,000	399,011	266	1,500	

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
11	入場頭数	11	0	0	2	0	12	11	0
	成立頭数	10			2		6	7	
	最高(円)	76,680		109,080		86,400	65,880		
	最低(円)	52,920		91,800		44,280	56,160		
	平均(円)	69,660		100,440		66,780	60,789		

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀	37	883,440	592,920	735,159	270	2,721
		♂	0					
		去計	52	1,059,480	693,360	876,815	301	2,911
		計	89	1,059,480	592,920	817,924	288	2,837

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日		5, 9, 15, 19, 25, 29				
畜種	年齢	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	4	248,400	7,560	81,810
		♂	151	149,040	5,400	105,840
		去計	0			
	3歳以上	♀	5	249,480	108,000	178,200
		♂	0			
		去計	5	249,480	108,000	178,200
F1	スモール	♀	95	241,920	21,600	174,744
		♂	96	329,400	75,600	271,901
		去計	191	329,400	21,600	223,577
黒毛和種	子牛	♀	1	286,200	286,200	286,200
		♂	1	272,160	272,160	272,160
		去計	0			
	1歳	♀	2	286,200	272,160	279,180
		♂	2	443,880	379,080	411,480
		去計	0			
スモール	子牛	♀	3	572,400	433,080	519,120
		♂	2	614,520	508,680	561,600
		去計	3	524,880	463,320	504,360
	3歳以上	♀	8	614,520	433,080	524,205
		♂	1	729,000	729,000	729,000
		去計	0			
1歳	♀	1	729,000	729,000	729,000	
	♂	1	729,000	729,000	729,000	
	去計	1	651,240	651,240	651,240	
3歳以上	♀	1	651,240	651,240	651,240	
	♂	0				
	去計	1	651,240	651,240	651,240	

食肉地方卸売市場

株式会社中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉：毎週月曜日、木曜日					
	項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)				屠畜頭数		
畜種	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	16,808.0	78.4	568	480	464	431	341	451	29,709	822.0
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A	206	469.2	2,795	2,604	2,363	1,958	-	2,599	
	B	19		2,620	2,436	2,292	1,495	-		
	C	8		-	-	-	1,121	809		
乳牛	A	-	307.8	-	-	-	-	-	619	
	B	22		-	-	-	708	612		
	C	193		-	-	-	661	563		
交雑牛	A	10	490.4	1,926	1,862	1,641	-	-	1,594	
	B	95		1,902	1,752	1,627	1,430	-		
	C	19		-	1,518	1,556	1,073	599		

肉用子牛生産者補給金・肉用牛繁殖経営支援事業発動状況

平成27年度第4四半期(平成28年1~3月)

○肉用子牛生産者補給金制度

(単位：円/頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	332,000	303,000	217,000	130,000	199,000
合理化目標価格	277,000	255,000	147,000	88,000	144,000
平均売買価格	768,500	691,200	478,200	239,300	392,200
補給金単価	-	-	-	-	-

○肉用牛繁殖経営支援事業

(単位：円/頭)

区分	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種
保証基準価格	332,000	303,000	217,000
平均売買価格	768,500	691,200	478,200
発動基準	420,000	380,000	280,000
支援交付金単価	-	-	-

平成28年4月市況

子豚市場

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)
13	一般子豚	23	22,896	22,572	22,712	50
	ベビー豚	322	20,952	7,560	18,869	35
27	一般子豚	47	19,980	18,252	19,308	50
	ベビー豚	313	19,656	15,228	18,548	35

牛市場

全農茨城県本部 家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
14	和牛	♀	44	893,160	535,680	736,609	284	2,591
		♂	0					
		去計	79					
	F1	去計	123	1,074,600	535,680	822,460	303	2,718
		経産	4	646,920	110,160	360,990		
F1	♀	去計	4	353,160	243,000	319,950	258	1,241
		去計	27	467,640	324,000	431,280	274	1,576
	去計	31	467,640	243,000	416,915	272	1,535	

種豚オークション

全農茨城県本部 子豚市場

開催日	区分	L		W		D		LW	WL
		♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♀
8	入場頭数 成立頭数 最高(円) 最低(円) 平均(円)	開催なし							

大子町畜産農業協同組合 大子家畜市場

開催日	畜種	性別	頭数	最高(円)	最低(円)	平均(円)	平均体重(kg)	kg当たり単価(円)
16	和牛	♀ ♂ 去計	開催なし					

茨城県家畜商業協同組合 茨城県中央家畜市場

開催日	畜種	年齢	性別	頭数	5, 9, 15, 19, 25, 29		
					最高(円)	最低(円)	平均(円)
乳牛	スモール	♀	去計	8	129,600	4,320	59,265
			♂	127	154,440	3,240	120,484
			去計	0			
	子牛	♀	去計	2	104,760	6,480	55,620
			♂	0			
			去計	0			
2歳	♀	去計	2	104,760	6,480	55,620	
		♂	1	388,800	388,800	388,800	
		去計	0				
F1	スモール	♀	去計	1	388,800	388,800	388,800
			♂	94	278,640	145,800	216,712
			去計	93	366,120	162,000	296,106
	子牛	♀	去計	0			
			♂	187	366,120	145,800	256,197
			去計	3	280,800	55,080	200,160
黒毛和種	スモール	♀	去計	1	346,680	346,680	346,680
			♂	1	346,680	55,080	236,790
			去計	4	346,680	55,080	236,790
	子牛	♀	去計	0			
			♂	1	583,200	583,200	583,200
			去計	0			
子牛	♀	去計	1	583,200	583,200	583,200	
		♂	2	505,440	402,840	454,140	
		去計	0				
子牛	♀	去計	0				
		♂	0				
		去計	2	505,440	402,840	454,140	

食肉地方卸売市場

株茨城県中央食肉公社

開催日	豚枝肉：日曜、祭日を除く毎日				牛枝肉：毎週月曜日、木曜日					
	項目	上場頭数		卸売価格(枝肉1kg当たり単価・円)				屠畜頭数		
畜種	頭数	平均重量(kg)	極上	上	中	並	外	平均	豚	牛
豚	16,969.5	79.3	503	493	473	434	359	458	27,411	961.0
牛	頭数	平均重量(kg)	5	4	3	2	1	平均単価(円)		
和牛	A	235	482.7	2,924	2,745	2,497	1,719	-	2,700	
	B	29		2,755	2,620	2,335	1,461	866		
	C	8		-	-	-	-	737		
乳牛	A	-	320.8	-	-	-	-	-	637	
	B	12		-	-	-	798	597		
	C	159		-	-	-	692	577		
交雑牛	A	12	495.1	-	1,838	1,773	-	-	1,680	
	B	92		2,015	1,810	1,726	1,476	-		
	C	22		-	1,774	1,636	1,324	-		

新マルキン発動状況

期	支払方式	肉専用種	交雑種	乳用種
平成28年3月	確定単価	-	-	17,500
	(免除牛)	(-)	(-)	(13,100)
平成28年2月	確定単価	-	-	10,500
	(免除牛)	(-)	(-)	(7,800)
平成28年1月	確定単価	-	-	1,100
	(免除牛)	(-)	(-)	(800)
平成27年12月	確定単価	-	-	-
	(免除牛)	(-)	(-)	(-)
平成27年11月	確定単価	-	-	-
	(免除牛)	(-)	(-)	(-)
平成27年10月	確定単価	-	-	-
	(免除牛)	(-)	(-)	(-)

(注)

平成26年4月期の補填金交付から、四半期の最終月以外については、補填金を概算払いし、各四半期の最終月に確定単価で精算払いをすることになりました。(配合飼料価格安定制度の見直しによる生産費用算出の関係によるもの。)

また、平成26年4月から消費税抜きで算定されています。

○茨城県において補填金交付額に見合う財源を確保できない場合、補填金単価を減額することがあります。

◎算定基礎の詳しい情報は、(独)農畜産業振興機構HP (<http://www.alic.go.jp>) をご覧ください。

農家のみなさんへ

貸したい農地ありませんか？

農地を貸したい

●規模縮小・経営転換・農地相続
でお困りの方。

貸付

**農地集積
バンク**

農地中間管理機構

農地を借りたい

●規模拡大・新規参入
をお考えの方。

貸付
(転賃)

農地の集積・集約化を推進しています。

農地中間管理機構または、最寄りの市町村(農政担当)まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

農地中間管理機構 ☎ 029-239-7131

(公益社団法人茨城県農林振興公社) 水戸市上国井町3118-1

■ ホームページ <http://ibanourin.or.jp/nourin/kanri/>

茨城県農林振興公社

検索



茨城県銘柄鶏

奥久慈

しゃも

奥久慈しゃも生産組合

〒319-3523 茨城県久慈郡大子町袋田3723
TEL / 0295-72-4250
FAX / 0295-72-2944

いばらき地鶏

茨城県が誇る、霜降り牛肉

常陸牛

ひたちぎゅう

いばらきの高品質豚肉

ローズポーク

茨城県銘柄豚振興会

事務局
〒311-3155 東茨城郡茨城町下土師1950
全国農業協同組合連合会 茨城県本部内
TEL / 029-292-8004
FAX / 029-292-7743

公益社団法人 茨城県畜産協会

TEL / 029 (231) 7501 FAX / 029 (222) 2032

○当協会に対する意見・要望
Eメール info@ibaraki.lin.gr.jp

○本紙への掲載「催事・各種情報」
Eメール chikusan@ibachiku.com

○ホームページ
<http://ibaraki.lin.gr.jp>